

第2回

グリーン麻酔科医への道
～パースで考えた環境問題～岡原 祥子 つくばー クリニク 差し替えて!!
順天堂大学医学部附属順天堂医院 麻酔科・ペインクリニック
一般社団法人みどりのドクターズ 事務局メンバー

三つのごみ箱

44a 新3B (x)

「普通のごみ」とは？

赤は普通のごみ箱、と書きましたが、裏を返せば、リサイクル（黄）とコンポスト（緑）以外のごみ、ということになります。オーストラリアではこの赤の「普通ごみ」は、驚くことにそのまま埋め立てられることがほとんどです。焼却施設の建設も進んでいるようですが、現時点では埋め立てが前提なので、日本のように、不燃と可燃の区別はありませんでした。

電球や電池は大手のスーパーマーケットで回収されています。ペンキ、ガスボンベ、化学品、医療廃棄物などの有害なごみは、自治体の指定ステーションに持ち込みます。また、いわゆる粗大ごみは、決められた日（年に1～2回程度）に家の前に出しておくで無料で回収してくれます（特定の日に取りに来てもらう場合は申込制で有料）。まだ使える状態の家具家電は、中古品として売ること一般的です。このシステムについては、次回に紹介に詳しく説明します。

リサイクルごみは
全種類まとめて

日本でいういわゆる「資源ごみ」は、紙でも缶でもハードプラスチックでも、すべて一緒くたに黄色のごみ箱です。回収後に選別することによって、素材ごとの細かい分別がないとリサイクルに対する心理的ハードルがぐっと下がる気がしました。割れた瓶も入れてよいのには驚きましたが、大きなごみ収集車にザザザーと豪快に入れるので、その際の衝撃で瓶類は結局割れていそうでした。引っ越した

当初は何がリサイクルできるのかよくわからなかったものの、だんだんとリサイクルマークの表示が見分けられるように（写真3）。我が家の娘たちも、「これはごみ リサイクル？」と聞いてから捨ててくれるようになりました。ただ、以前はハードプラスチック（ペットボトルや子供のおもちゃなど硬いもの）でもソフトプラスチック（お菓子の袋などペラペラのもの）でも、すべてリサイクルできていたのに、ソフトプラスチックは、2023年6月からリサイクル不可になってしまったそうです。理由は施設のキャパシティ不足とこのことで、技術はあるのにシステムが回せないのはもったいないと感じます。

コンポストは行政が行う

緑のコンポスト用ごみ箱には、台所で作る生ごみ、庭仕事で刈った草木や落ち葉を入れていました（自治体によって生ごみは回収しないところもあります）。コンポストでできた堆肥は、農業や公園・道路沿いの植栽、採掘跡地の植生回復などに使用されます。また、家庭園芸用に袋詰めされてホームセンターで販売されているものも見かけました。コンポストをしなかった場合、一般ごみのおよそ半分が生ごみである、というデータもあるそうです。生ごみや生木は、本来なら再活用できる資源なので、埋め立ててしまえばお金を捨てているようなものですし、水分を多く含んでいるので、焼却には多大なエネルギーが必要となります。私は日本でコンポストをしてみたいと思っていたものの、マンション住まいであること

グリーン麻酔科医への道 ◆～パースで考えた環境問題～

▼写真2 回収日に道路に並べられた各家庭のゴミ箱



▼写真3 リサイクルマーク



やオーストラリアへの引っ越しを控えていたこともあり、手を出せていなかったのが、行政のシステムとしてコンポストがあるのがとても快適で嬉しかったです。

回収は週に1回しかないので、生ごみをそのままごみ箱に入れておくと、特に夏場は臭いや虫が湧いておそろしいことになります。私は、スーパーで売っている100%プラントペースト（生分解性）のコンポスト用ごみ袋で密閉してからごみ箱に入れるようにしていました。

スーパーに売っているごみ袋は、コンポスト用以外にもたくさんの種類があって、100%プラスチック素材のものから、50%生分解性、100%生分解性など、用途に応じて選べるようになっていました。残念ながら生分解成分が多いほど高くなる傾向だったので、セールの時を狙って買うようにしていました。

生分解性といえば、カフェで使用される紙カップや、テイクアウト用の食事容器も、生分解性のものがほとんどでした。日本も早くそうなってほしいです。理論上はこれらも緑のごみ箱に入れられるはずですが、プラスチックで内張りされているものと選別できないため、という理由で、現時点では赤いごみ箱に捨てる決まりです。

カフェ大国オーストラリア

オーストラリアはカフェ大国で、みんな本当によくコーヒーを飲みます。個人的な考察ですが、これは子供の頃からの習慣が理由ではないかと思います。とい

うのも、娘たちが通っていた現地の幼稚園や小学校では、午前10時頃に必ず「morning tea」、つまり、朝のおやつタイムが設けられていました。なんとオベ室もそれは例外ではなく、1件目の手術で麻酔導入が終わると、オーベンの先生によく「さあ、morning teaにしようか」と、言われ最初はえ？ まだ朝ですけど…？ と戸惑いました。の中には、ネーベンのみならず、手術室内の麻酔科テクニシャン（麻酔科医の補助をする専属の職種）や看護師、外科医にまで、おごってくれるオーベも。日本より物価が高いため（コーヒー1杯600円くらい）全員分では結構な金額になりますが、お給料も日本よりだいぶ高いので、仕事でお返しします！ とありがたくいただ戴いていました。

ちなみに私は、コーヒーが飲めません。「麻酔科医なのにコーヒーが飲めないなんてうそでしょ?！」とからかわれましたが、どこのカフェにも、紅茶やチャイがメニューにあり、オーツミルクや豆乳などの代替ミルクが常備されているのも、ヴィーガンとしては嬉しい驚きでした。

衛生概念も日本とは少し違って、カフェで買った飲み物や自分の水筒を手術室内に持ち込んでそのまま飲んでいる人も多かったです。手術室の外に各人のマイボトルをおく場所が設けられていましたが、手術室内で飲んでいても誰にも注意されません。はじめは非常に抵抗がありましたが、慣れとは恐ろしく、気づけば私も好きなドリンクを飲みなが

ら麻酔維持をするようになっていました…。

ごみの量を減らすには

最後に、ベア・ジョンソンの著書『ゼロ・ウェイスト・ホーム ごみを出さないシンプルな暮らし』（アノニマ・スタジオ、2016年）を紹介します。家族4人暮らしの著者が、1年間で家庭から出るごみの量を、小さな瓶たった一つ分（!!）にまで減らす方法を紹介しており、面白くて一気に読みました。

ごみを出さない、と言っても、彼らは原始人のような生活をしているわけではなく、街に住んで仕事もしておしゃれも楽しみながら、さまざまな方法を駆使してごみを減らしていくのです。ごみを減らす利点は、焼却により排出される温室効果ガスの減量、埋め立てによる環境汚染の回避、ごみ処理にかかるコスト削減などなど、誰もが理解しています。

そして、ごみを減らすにはリサイクル、とまず考えるかもしれませんが、しかし実は、環境に配慮した行動において、リサイクルは最初に来る選択肢ではありません。どんどん買って安易にリサイクルする前に、まずはそれが本当に自分に必要なものなのか判断して、いらぬものは断る＝refuse、そもそもの買入量を減らす＝reduce、そのままの形で繰り返し使う＝reuse、といったアクションを検討するほうが先なのです。これらの方法が具体的に場面別で書かれているので、ぜひ手にとってみてください。